

## 【表紙】

【提出書類】 四半期報告書の訂正報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第4項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成25年4月8日

【四半期会計期間】 第34期第3四半期(自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日)

【会社名】 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社

【英訳名】 ITOCHU Techno-Solutions Corporation

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 菊地 哲

【本店の所在の場所】 東京都千代田区霞が関三丁目2番5号

【電話番号】 (03)6203-5000(代表)

【事務連絡者氏名】 主計部長 矢板 邦彦

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区霞が関三丁目2番5号

【電話番号】 (03)6203-5000(代表)

【事務連絡者氏名】 主計部長 矢板 邦彦

【縦覧に供する場所】 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 大阪支店  
(大阪市北区梅田三丁目1番3号)

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 名古屋支店  
(名古屋市中区錦一丁目5番11号)

株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 1 【四半期報告書の訂正報告書の提出理由】

平成25年2月8日に提出いたしました第34期第3四半期（自平成24年10月1日 至平成24年12月31日）四半期報告書の記載事項の一部に訂正すべき事項がありましたので、これを訂正するため四半期報告書の訂正報告書を提出するものであります。

## 2 【訂正事項】

### 第一部 企業情報

#### 第2 事業の状況

#### 3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析

##### (1) 業績の状況

#### 第4 経理の状況

##### 1 四半期連結財務諸表

##### 注記事項

##### セグメント情報等

##### セグメント情報

## 3 【訂正箇所】

訂正箇所は\_\_\_\_を付して表示しております。

## 第一部 【企業情報】

### 第2 【事業の状況】

#### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

##### (1) 業績の状況

(訂正前)

<前略>

セグメント別の業績は次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分方法を変更しているため、当第3四半期連結累計期間の比較・分析は変更後の区分方法に基づいております。

##### ①情報通信事業

携帯キャリア向けの設備増強案件や、郵便会社向けインフラ構築案件が伸長し、売上高は96,731百万円（前年同期比26.8%増）、営業利益は10,513百万円（同20.1%増）となりました。

##### ②金融事業

カード会社向け案件等が減少し、売上高は16,799百万円（同10.3%減）となりましたが、売上総利益率の改善等により、営業利益は1,674百万円（同62.3%増）となりました。

##### ③エンタープライズ事業

売上高は概ね前年並みの66,642百万円（同0.1%増）となりましたが、販売費及び一般管理費の増加により、営業利益は1,720百万円（同29.6%減）となりました。

##### ④流通事業

商社向け案件等が減少し、売上高は28,787百万円（同2.0%減）となりました。営業利益は、売上総利益率の低下や販売費及び一般管理費の増加により、1,850百万円（同38.8%減）となりました。

##### ⑤クラウドプラットフォーム事業

当セグメントは、データセンターを含むクラウド関連ビジネスを全社横断的に提供しており、売上高は20,560百万円（同4.7%増）、営業利益は1,255百万円（同0.1%増）となりました。

##### ⑥保守・運用サービス事業

当セグメントは、保守・運用を中心としたサービスビジネスを全社横断的に提供しており、売上高は21,728百万円（同6.1%増）、営業利益は7,766百万円（同4.5%減）となりました。

##### ⑦その他

売上高は8,266百万円（同0.5%減）、営業損失は230百万円（前年同期は263百万円の営業利益）となりました。

(注) 上記セグメントの売上高及び営業利益は、セグメント間の内部売上高等を含めて表示しております。

(訂正後)

<前略>

セグメント別の業績は次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分方法を変更しているため、当第3四半期連結累計期間の比較・分析は変更後の区分方法に基づいております。

①情報通信事業

携帯キャリア向けの設備増強案件や、郵便会社向けインフラ構築案件が伸長し、売上高は96,814百万円（前年同期比26.9%増）、営業利益は10,513百万円（同20.1%増）となりました。

②金融事業

カード会社向け案件等が減少し、売上高は16,806百万円（同10.2%減）となりましたが、売上総利益率の改善等により、営業利益は1,674百万円（同62.3%増）となりました。

③エンタープライズ事業

売上高は概ね前年並みの66,654百万円（同0.1%増）となりましたが、販売費及び一般管理費の増加により、営業利益は1,720百万円（同29.6%減）となりました。

④流通事業

商社向け案件等が減少し、売上高は28,764百万円（同2.1%減）となりました。営業利益は、売上総利益率の低下や販売費及び一般管理費の増加により、1,850百万円（同38.8%減）となりました。

⑤クラウドプラットフォーム事業

当セグメントは、データセンターを含むクラウド関連ビジネスを全社横断的に提供しており、売上高は20,952百万円（同5.2%増）、営業利益は1,255百万円（同0.1%増）となりました。

⑥保守・運用サービス事業

当セグメントは、保守・運用を中心としたサービスビジネスを全社横断的に提供しており、売上高は46,593百万円（同0.0%増）、営業利益は7,766百万円（同4.5%減）となりました。

⑦その他

売上高は8,270百万円（同0.5%減）、営業損失は230百万円（前年同期は263百万円の営業利益）となりました。

(注) 上記セグメントの売上高及び営業利益は、セグメント間の内部売上高等を含めて表示しております。

## 第4 【経理の状況】

### 1 【四半期連結財務諸表】

#### 【注記事項】

(セグメント情報等)

#### 【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(訂正前)

(単位：百万円)

	報告セグメント							その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注3)
	情報 通信 事業	金融 事業	エンタ ープライズ 事業	流通 事業	クラウ ドプラ ットフ ォーム 事業	保守・ 運用 サービ ス事業	計				
売上高											
外部顧客への 売上高	75,961	18,663	66,035	29,279	5,176	2,230	197,348	5,966	203,314	—	203,314
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	<u>321</u>	55	<u>511</u>	<u>98</u>	<u>14,466</u>	<u>18,253</u>	<u>33,707</u>	<u>2,344</u>	<u>36,052</u>	<u>△36,052</u>	—
計	<u>76,283</u>	18,718	<u>66,547</u>	<u>29,378</u>	<u>19,643</u>	<u>20,484</u>	<u>231,055</u>	<u>8,310</u>	<u>239,366</u>	<u>△36,052</u>	203,314
セグメント利益	8,753	1,032	2,442	3,024	1,254	8,129	24,636	263	24,899	△10,378	14,521

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、科学事業等が含まれております。

2. セグメント利益の調整額△10,378百万円には、主に全社費用△11,493百万円、セグメント間取引消去1,097百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門等に係る費用であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(訂正後)

(単位：百万円)

	報告セグメント							その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注3)
	情報 通信 事業	金融 事業	エンタ ープライズ 事業	流通 事業	クラウ ドプラ ットフ ォーム 事業	保守・ 運用 サービ ス事業	計				
売上高											
外部顧客への 売上高	75,961	18,663	66,035	29,279	5,176	2,230	197,348	5,966	203,314	—	203,314
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	<u>358</u>	55	<u>523</u>	<u>102</u>	<u>14,748</u>	<u>44,357</u>	<u>60,145</u>	<u>2,348</u>	<u>62,493</u>	<u>△62,493</u>	—
計	<u>76,319</u>	18,718	<u>66,559</u>	<u>29,381</u>	<u>19,925</u>	<u>46,587</u>	<u>257,493</u>	<u>8,314</u>	<u>265,807</u>	<u>△62,493</u>	203,314
セグメント利益	8,753	1,032	2,442	3,024	1,254	8,129	24,636	263	24,899	△10,378	14,521

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、科学事業等が含まれております。

2. セグメント利益の調整額△10,378百万円には、主に全社費用△11,493百万円、セグメント間取引消去1,097百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門等に係る費用であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(訂正前)

(単位：百万円)

	報告セグメント							その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注3)
	情報 通信 事業	金融 事業	エンタ ープライ ズ 事業	流通 事業	クラウ ドプラ ットフ ォーム 事業	保守・ 運用 サービ ス事業	計				
売上高											
外部顧客への 売上高	96,233	16,724	66,053	28,539	5,213	2,215	214,980	4,939	219,919	—	219,919
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	<u>498</u>	<u>74</u>	<u>588</u>	<u>247</u>	<u>15,346</u>	<u>19,512</u>	<u>36,268</u>	<u>3,327</u>	<u>39,595</u>	<u>△39,595</u>	—
計	<u>96,731</u>	<u>16,799</u>	<u>66,642</u>	<u>28,787</u>	<u>20,560</u>	<u>21,728</u>	<u>251,248</u>	<u>8,266</u>	<u>259,514</u>	<u>△39,595</u>	219,919
セグメント利益又 は損失(△)	10,513	1,674	1,720	1,850	1,255	7,766	24,781	△230	24,551	△9,835	14,715

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、科学事業等が含まれております。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△9,835百万円には、主に全社費用△10,848百万円、セグメント間取引消去983百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門等に係る費用であります。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(訂正後)

(単位：百万円)

	報告セグメント							その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注3)
	情報 通信 事業	金融 事業	エンタ ープライ ズ 事業	流通 事業	クラウ ドプラ ットフ ォーム 事業	保守・ 運用 サービ ス事業	計				
売上高											
外部顧客への 売上高	96,233	16,724	66,053	28,539	5,213	2,215	214,980	4,939	219,919	—	219,919
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	<u>581</u>	<u>81</u>	<u>600</u>	<u>225</u>	<u>15,739</u>	<u>44,378</u>	<u>61,606</u>	<u>3,330</u>	<u>64,937</u>	<u>△64,937</u>	—
計	<u>96,814</u>	<u>16,806</u>	<u>66,654</u>	<u>28,764</u>	<u>20,952</u>	<u>46,593</u>	<u>276,587</u>	<u>8,270</u>	<u>284,857</u>	<u>△64,937</u>	219,919
セグメント利益又 は損失(△)	10,513	1,674	1,720	1,850	1,255	7,766	24,781	△230	24,551	△9,835	14,715

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、科学事業等が含まれております。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△9,835百万円には、主に全社費用△10,848百万円、セグメント間取引消去983百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門等に係る費用であります。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

**【表紙】**

**【提出書類】** 確認書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の8第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成25年4月8日

**【会社名】** 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社

**【英訳名】** ITOCHU Techno-Solutions Corporation

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 菊地 哲

**【最高財務責任者の役職氏名】** 取締役兼専務執行役員 池田 修二

**【本店の所在の場所】** 東京都千代田区霞が関三丁目2番5号

**【縦覧に供する場所】** 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 大阪支店  
(大阪市北区梅田三丁目1番3号)

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 名古屋支店  
(名古屋市中区錦一丁目5番11号)

株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長菊地哲及び取締役兼専務執行役員池田修二は、当社の第34期第3四半期（自平成24年10月1日至平成24年12月31日）の四半期報告書の訂正報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

## 2 【特記事項】

該当事項はありません。